

開催概況

日時：平成29年11月27日（月曜日）

午後7時00分から8時30分

会場：パルテノン多摩 4階第一会議室

参加人数：42人（うち傍聴者20人）

参加団体等

- 区市町村
- 地区医師会
- 在宅医
- 病院
- 病院協会
- 歯科医師会
- 薬剤師会
- 看護協会
- 介護支援専門員研究協議会
- 老人保健施設協会
- 保険者協議会

主な意見交換の内容

【在宅療養に関する地域の現状・課題等について】

- 在宅医療と言っても患者の病態は様々であり、多様化する医療ニーズに、病床機能のような訪問診療の機能分化も必要
- 患者・家族との信頼関係が重要。その上で、今後の病状変化等、想定される事態をあらかじめ伝えておくことが大切
- 地域の資源を把握した上で、どこまで対応ができるかという、患者・家族との話し合いも必要。
- 在宅医療の需要と供給、現状ではバランスが取れていると感じる。そのため質の確保・向上に向けた取組が進められる
- 在宅医療を進める上で、患者自身が独居であったり、生活力がないと、実態としてはかなり難しいと感じる。
- 在宅医療を専門に担わなくても、外来+訪問診療で、その先は在宅専門医に上手くバトンタッチするなど、しくみづくりが必要
- 外来を中心に成り立っているところでは、訪問診療を新たにやろうという意識はあまりないように感じる。
- 在宅医療に対応しているという趣旨の看板をなかなか掲げてくれない。依頼があると断れなくなるからだと思う。

【地域と病院の連携について】

- 地域と病院で顔の見える関係を作るための会を開催している。
- 在宅と病院との連携、上手くいっている。一方で、市外の病院との連携が取れていないのが課題
- 急性期病院から在宅への移行にあたっては、医療連携室が病態に応じて、在宅専門を紹介するか、一般のクリニックを紹介するか対応している。
- 生活面で多くのサポートを必要とする患者は、病院で受け入れても在宅への復帰がなかなか難しい。
- 区分Ⅰの7割を在宅に戻すのは、現実的には難しいと思う
- 在宅療養というより、患者からは施設等への意識が強く感じる。この辺りの意識変容がないと進んでいかない。
- 療養病床からの移行にあたって、施設等の整備も必要ではないか。
- 病院としては、自宅へ帰れると思っけていても、家族が在宅での対応は無理というケースもある。
- 独居、生活力がないとやはり帰れない。